

精神科

研修責任者： 岸口 武寛

「概要と特徴」

- ◇ 平成21年度より、常勤医師1名のみで精神科診療を行っています。
当院の精神科には入院病床はありません。院内コンサルテーション・外来診療が主な業務内容です。
- ◇ 院内コンサルテーションですが、身体疾患の治療のために当院に入院中の患者さんに、せん妄・抑うつ・不安障害などの精神的な合併症が生じることがあります。
あるいは精神疾患(統合失調症、うつ病、双極性障害など)に罹患している患者さんが身体疾患を患って入院する事もあります。そういった患者さんを、身体科のスタッフと協働して医療チームとして診療させてもらうことにより、患者さんの早期回復を目指していきます。
- ◇ 緩和ケアチームの一員として、精神腫瘍学(サイコオンコロジー)領域における診療を行っています。
入院・外来を問わず、悪性疾患を患った患者さんの抑うつ・不安・せん妄などの精神症状の緩和を目指した活動です。
- ◇ 外来診療では、気分障害や不安障害を中心に多岐多彩な患者さんを診察しています。
治療としては支持的精神療法、薬物療法が中心となります。入院が必要な患者さんを精神科病院に紹介するのも当科の重要な役割と考えています。
- ◇ 医師育成キャリア支援室の1メンバーとして、研修医をはじめとした医師対象のメンタルヘルス活動を行っています。
- ◇ 近年、医療のさまざまな領域で多業種のスタッフと協同で行われるチーム医療の重要性が指摘されています。これは精神科では古くから取り組んでいた診療アプローチで、精神科の得意分野と言えるでしょう。当院精神科の業務も、院内コンサルテーションにおいては院内の主治医・看護師をはじめとした多業種のスタッフとの協力のもとで、外来診療においては入院加療などの専門治療をお願いする他の精神科専門病院の先生方や、地域のかかりつけ医の先生方の協力があって、はじめて成り立つのがチーム医療です。こうしたチーム医療の一員として、患者さんに質の高い医療を提供し、患者さんの生活の質の向上を目指すこと、それが当科の重要な目標の1つです。

「初期研修の基本的方針」

当院での精神科における初期研修は、マンパワーの問題と精神科病床がない事を主な理由として、現在は行っていません。したがって、初期研修2年目に、院外において精神科研修を行ってもらっています。具体的には岡山市の岡山県精神科医療センター、岡山大学病院・精神科、慈圭病院のいずれかを選択し、1ヶ月の研修を行ってもらいます。もちろん、当院内での身体科研修中に、精神疾患を罹患した患者さんを診る機会は大いにありますし、研修医向けの院内精神科勉強会を開催していますので、精神科的知識・経験を得る機会には事欠きません。

「教育方法」

当院内では、勉強会で知識を習得してもらう事が主となりますが、院外での精神科研修では以下の内容の習得が目標となってきます。

イ) 精神科面接

ロ) 検査:脳基質的検査(頭部画像検査、脳波検査など)、心理検査

ハ) 精神症候や状態像の理解

ニ) 病態の把握、診断:統合失調症圏、気分障害圏、不安障害、器質性精神障害、
依存・嗜癖精神疾患、パーソナリティ障害、児童思春期の精神障害など

ホ) 治療・リハビリテーション

- ① 初期対応
- ② 長期的視点にもとづいた対応の見立て
- ③ 精神療法、主要な心理療法(認知行動療法など)の見解
- ④ 薬物療法とその副作用の理解
- ⑤ 精神科特有のインフォームドコンセントの理解(病名告知、薬物療法など)
- ⑥ 院内コンサルトにおいて他科との連携(リエゾン・コンサルテーション精神医学)
- ⑦ 精神科におけるリハビリテーション(精神科デイケア・SST・精神福祉サービスなど)

〈以上、文責:国立病院機構岡山医療センター精神科 岸口 武寛〉